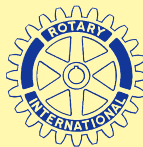




VOL. 2839
Rotary International

「結束の力で未来を創る」

第2839回例会 2025.2.19
ソング「我等の生業」



富士ロータリークラブ **WEEKLY**

<http://fuji-rc.com/>

例会日:毎週水曜日 12:30
例会場:ホテルグランド富士
TEL(0545)61-0360
事務所:〒416-0913 富士市平垣本町8-1
ホテルグランド富士内
会長:佐藤 昌久
副会長:田村 洋
幹事:石橋 広明
副幹事:塩谷 知一

会長挨拶

佐藤 昌久



皆さま、本日も例会にご出席いただきありがとうございます。

まずは、長年にわたり当クラブの発展に尽力されてきた太田会員がご逝去されました。太田会員は、ロータリーの精神を体現され、クラブのため、そして地域のために多くの貢献をされました。心よりご冥福をお祈りするとともに、その功績を称え、私たちもその意思を受け継いでいきたいと思います。

さて、先日インターシティーミーティングに出席してまいりました。ご出席していただきました会員の皆様、お疲れ様でした。

今回は長泉ロータリークラブがホストを務められ、「米山梅吉記念館とともに」というテーマでミーティングが開催されました。

全体会議、旧米山梅吉記念館の歴史のライドショー、講演として「がん治療の最前線、胃がんの治療を中心として」ということで静岡県立静岡がんセンターの副院長、寺島雅典先生の講演がございました。

懇親会では、各クラブの活動紹介ということでスライドで紹介がありました。富士ロータリークラブの紹介を制作していただいたのは、池田会員で、植田会員にも助言を頂きお手伝いをいただきました。大変ありがとうございました。

インターシティーミーティングのご報告を簡単にさせて

いただきましたが、ロータリー活動の中で、インターシティーミーティング、地区大会とクラブ全体として出席する大きな行事として年間で二つございます。

今後もう少し出席をしていただく方向で皆様にもご協力いただければということを感じております、次年度の課題でもありますがよろしくご協力のほどお願いいたします。今週は強い寒気が来るとニュースでも言われております、皆さまもどうかご自愛ください。本日もよろしくお願いいたします。

親睦委員会

榮賀 明

会員誕生日	望月 慎一郎	2.19
	山下 いづみ	2.19
入会記念日	宮下 正雄	S 6 1. 2. 19
創立記念日	吉野 榮司	S 2 3. 3. 1
	大箸 光弘	S 5 9. 3. 1



お誕生日
おめでとう
ございます

★私のスマイル

山田昌宏君 国際交流クッキングありがとうございました。みんなスマイル!!

植田眞晴君 我家の梅が満開です。今年は特に。風は冷たいですが春はそこまで来てます。佐藤会長、石橋幹事ももう少しです。頑張ってください。

本日合計 ¥4,000 7月からの累計 ¥183,000

出席報告

榮賀 明

2839回				
会員数	計算会員数	欠席者数	出席者数	出席率
32名	31名	13名	18名	58%
2837回 2/5確定				
会員数	計算会員数	欠席者数	出席者数	出席率
32名	31名	7名	24名	77.4%

例会プログラム予告

- 3月5日 クラブフォーラム (会員増強)
- 3月19日 夜間例会(通常) 卓話

「国際交流クッキングin静岡ガスキッチンにて」 ～餅つき・抹茶体験・書道絵はがき作り～



子供や家庭への支援

はじめに

CMにて

「スタートって皆同じと思っていた。私は一生追いつけないんですか。私は未来を選べないんですか。」
生まれながらにして経済的格差のある社会への問いかけに、私たちはどのように答えるのか？

1 家庭への支援の状況から

(1) 行政による経済的支援

① 生活保護

住宅や車、財産等の資産すべてを活用しても生活に困窮する国民に、健康的で文化的な最低限度の生活を保障するための生活福祉資金、各種社会保障施策等。

② 児童扶養手当

父母の離婚などで、父または母と生計を同じくしていない児童が育成される家庭（ひとり親）の生活の安定と自立の促進に寄与し、児童の福祉の増進を図る目的の手当。

③ 就学援助

市町村による、生活保護を受けている方に準ずる程度生活に困っているため児童に義務教育を受けさせることが困難な保護者に対する学校生活に必要な費用の一部の援助。

(2) 行政、学校による子育て支援

① 福祉行政による全般的な支援

富士市の医療・養育支援及び相談等を含めた「家庭児童相談室」等、子どもの養育に関する全般的支援や児童虐待等に関する支援
福祉行政の充実円滑な執行には、学校、地域等が共に連携することが不可欠。

② ヤングケアラーへの支援

保護者へ変わり家族への世話、介護、看護等により学ぶことの困難な子供への支援
学校では本人から具体的に世話の内容や負担に感じていること、困っていることなどの思いを聞き取り、本人の家族を支えようとする思い等を十分ねぎらった上で、学校や周囲のできる支援を本人と考え、必要に応じて福祉や医療などの関係機関との連携を図る。

③ 子供からの SOS 支援

悩みを抱えた子供が直接相談できる窓口の設置と充実
静岡県ハロー電話「ともしび」 富士市「子どもなんでも電話相談」平日の昼間対応
富士市教委 学習用タブレット利用した「ほっとデジタル相談」24時間メール受付

(3) 法律に関する相談や支援

「生活困窮者自立支援窓口」による支援

法律の立場から保護者間のトラブルによる別居、離婚等で生活費、養育費等の困窮で就学困難な子供への支援

2 すべての子どもが未来を選べる支援に向けて

(1) 貧困の連鎖を断つ

家庭の経済格差が学力格差につながるのが現状。スタートラインの違う経済格差が学力格差につながり、進学への道が閉ざされることのないよう支援の手が求められる。

① 行政等として

・奨学金制度

学力格差を埋める現実的手立てとして有効であるが対象者に条件付けされる
「富士市給付型育英奨学金制度」等

・福祉行政の一環として、まちづくりセンター等の公共施設等での、「子どもの居場所」の中での学習支援の拡充への期待

※行政による支援は公費によるため対象者には様々な条件が付けられる。このため、支援の手の届かない家庭も存在する。

② 個人ボランティアや民間団体による支援への期待

・小中学校における「放課後学習支援ボランティア」等への個人登録の拡大と財政支援

・NPO 等による「子ども食堂」→温かい触れ合いの中で、心身の健康支援

・民間・地域による行政と連携した持続可能な学習支援への期待

・公設民営による学習支援の場の設置の検討が求められます。大学生の活用等

・民間による奨学金制度、「あしなが育英会」奨学金等への申し込み方等の活用支援

(2) 支援における留意点

① 経済的支援の「平等」と「公平」について問う

全ての子どもに一律に支援することは平等の原則、しかし、すでにスタートラインの違う状況において一律に公平なのか？「一生追いつけない」の声に対して、限られた財源を必要とすることに必要な支援を

② まずは支援を求める家庭に対して支援の存在を的確に情報提供する。

③ 支援の一層の拡充に、行政、民間、地域の一体的な支援への期待

現状は個々の支援の窓口を保護者や児童自身が選択して複数の窓口に対応を求めている。ワンストップ窓口の充実の必要性

④ 個の尊厳(そのらしさ)を尊重する

自己肯定感を高めることで生きるエネルギーの高揚が生まれる。そのためには一人一人の
人権や多様性の徹底した尊重による、夢や可能性を想像できる支援を。
多様性尊厳の意義について

「世の中は正反対なもの同士で成り立つ」

歩行ロボットは転ばないよに歩かせようとするが、転ばないものは歩くことはできない。
カッターナイフはよく切れる鋭い刃が肝心だが、全く切れない安全な子供用部分に包まれてこそ
役目を果たせる。

東京大学 ロボット工学者 森 政弘

3 富士市の今後の多様な教育への支援（ロータリクラブの皆さんにお願いしたいこととして）

(1) 新たなキャリア教育について

「シクミーナ」

市内の小中学生が社会や経済の仕組み、市民生活について体験を通して学ぶ新しいカリキュラム。児童生徒は公共施設内に設けた市役所や病院、金融機関、製造業などの各ブースの職場に配属され、一人一人が役割を担って組織内外の人々とかかわりながら職業を疑似体験する。

(2) STEAM 教育について

自分が創造する「モノづくり」を成し遂げるため、何時間かをかけて

Science 科学

Technology 技術

Engineering 工学

Arts 芸術

Mathematics 数学

これらの複数の教科を横断して一緒に学ぶことで、次のような効果が期待されます。

・自らの生活の中からモノづくりのテーマを設定することで**現実社会とつながる**

・プロジェクトや実験。作業を通じて**実際に作ったり体験し、技能や感性を高める**

・プログラミングやロボット、3D プリンタを使い**デジタルスキルを高める**

・グループで話し合ったり役割を分担したりして、**チームで課題を解決する**

・デザインやアートを取り入れ、自分のアイデアを形にする**想像力が育つ**

・答えが一つに決まっていない問題に取り組みながら**自分で考える力を育む**

これらの教育スタイルは子供のスタートラインはみな同じ、すべての子供たちの可能性を引き出し、夢や希望が自らの仕事につながるきっかけともなります。企業の皆さんの専門的な立場からの応援をお願いします。

編集者 田邊 登崇

卓 話

富士市前教育長
森田 嘉幸氏

